〔共同研究：インドネシアとの相互的文化交流に関する総合的研究（Ⅲ）〕

YouTube を通して発信するスンバ
――インドネシア東部における伝統の再活性化――

小　池　　誠

1　はじめに

本稿は YouTube にアップされた動画をおもな研究対象として，インドネシア東部に位置するスンバ島の住民がどのような種類の動画を，いかなる背景のなかでアップロードしているのか明らかにしたい。そして，ソーシャルメディアを取り巻く現在進行中の現象だけに焦点を当てるのではなく，筆者がフィールドワークを実施した 1980 年代後半のスンバの地域社会［小池 2005］における広義のメディアのあり方と，現在のデジタル化の動向を結びつけてメディアの変化について考察したい。

2020 年から始まったコロナ禍でインドネシアにおける現地調査がずっと不可能になってしまった。文化人類学と地域研究に従事する者にとってフィールドワークは必要不可欠な研究手法であり，研究上の危機に陥った。しかし，もともと YouTube の動画を授業資料として利用していたので，日本にいても調査が可能なインドネシア東部のスンバ島から発信されるソーシャルメディアをおもな研究対象として，そこに書かれたメッセージを読み解くことを現地調査に代替する調査法として構想した。そのため，この論文はコロナ禍におけるオンライン調査の可能性を探る一つの試みにもなっている[1)]。ソーシャルメディア，とくに YouTube の人類学的研究は国内外問わずあまり先行研究のない領域であり，筆者にとっても試行的で挑戦的な研究として位置付けられる。

日本のソーシャルメディアの研究で YouTube が対象になることは少なく，おもな対象となってきたのは Twitter，Facebook，Instagram，LINE など一般に SNS（Social Network Service）と呼ばれてきたアプリである［法政大学大学院メディア環境設計研究所編 2020］。上記 4 つでもそれぞれ特徴が異なり，対象とする研究領域と分野も異なっている。たとえば Instagram ではインフルエンサーに注目しマーケティングやツーリズムに関連する研究成果が目立っている。ソーシャルメディアといっても，その主要な特徴を比べると，メッ

1）このような危機的事態状況は，筆者のようなすでに何度も調査地でフィールドワークを実施してきた研究者よりも，調査中またはこれから調査を始めようとしている若手研究者にとってより深刻である。若手の人類学研究者のさまざまな模索が座談会の報告に提示されている［飯田ほか 2021］。

キーワード：現代インドネシア，スンバ，メディア，YouTube，伝統

セージのやり取り（Twitter）が中心か，動画の共有（YouTube）が中心か，また，メッセージのやり取りが開かれているか（Twitter はオープン型），閉ざされているか（LINE はクローズ型）など，多様で一概に括ることは難しい。世界的にみても研究分野ごとにソーシャルメディアの定義も多様である［Aichner et al. 2021］。筆者の考えでは，ソーシャルメディアは新聞やテレビなどのマスメディアと対照的にデジタル空間上で一般の個人が送り手になってコンテンツ（メッセージや写真，動画など）を発信でき，さらに送り手と受け手の間で相互作用が可能なメディアと定義することができる。YouTube はたんに動画を共有するのではなく，受け手が動画に対して評価とコメントを発信できる場となっている。

次の章で触れるように世界中にソーシャルメディアの使用が広まるとともに，2010 年前後からとうぜん人類学者も注目することになり，デジタル人類学という研究分野が誕生した。ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン（UCL）のミラー（D. Miller）はデジタル人類学の先駆者の 1 人である。『世界はソーシャルメディアをどのように変えたか』［Miller et al. 2016］はミラーが中心となって進められた研究プロジェクト[2)]の総まとめとして出版された。Facebook などのプラットフォームよりも，それらを通して投稿されるコンテンツ自体が研究上重要であり，世界各地にみられるコンテンツの多様性を比較研究するという研究目的［Miller et al. 2016：1］は，デジタル人類学と関連する本研究につながる視座である。

本稿は「映画とインスタグラムが誘うスンバ」［小池 2020a］[3)]の続編ともいえる。前稿では，スンバにおける観光の発展をインドネシア映画というマスメディアだけでなく，Instagram というソーシャルメディアと結びつけて論じた。その結論部分を引用する。「スンバで撮影した映画を観た人がスンバに旅することもあれば，映画は観なかったが，多様なサイトやインスタグラムにアップされている写真を観て，スンバに興味を持つ人も出てくる。映画だけではなく，人々がパソコンやスマートフォンでアクセスできるさまざまな情報が人々をスンバ島に誘っている」［小池 2020a：76］。ここで取り上げている Instagram に写真をアップしているのはおもに島外から来た観光客であった。一方，本稿が取り組むのは，スンバ島の住民がアップした動画と，それに付随するメッセージであり，その点で前稿とは研究対象が違うし，その社会的意味も異なっている。

本稿は 2019 年度に開始した共同研究プロジェクト「インドネシアとの相互的文化交流に関する総合的研究（Ⅲ）」（19 連 273）の成果報告である。このプロジェクトの研究目的は「教育や宗教，芸能，映画など多様な分野において，日本とインドネシアとの間の一方向的ではない相互的な交流を進ませるために現在何が求められているか模索したい」である。YouTube にはスンバ文化の理解に役立つ貴重な動画（たとえばスンバ独自の葬送や婚姻儀礼の動画）が数多くアップロードされているので研究する価値は大きい。

2）ミラーなど 9 人の人類学者がブラジルとチリ，中国，イギリス，インド，イタリア，トリニダード，トルコでソーシャルメディアの利用に関して調査を実施した。

3）この論文の内容に新しい資料も加えて，2021 年に ICAS という国際学会で発表した［KOIKE 2021］。

2　インドネシアにおけるソーシャルメディアの重要性

東南アジアに位置するインドネシアと聞くと，まだまだ経済的に遅れていてインターネット環境が悪く，ソーシャルメディアを含めてデジタル化が進んでいないというイメージが強いかもしれない。しかし，じっさいにはインドネシアも含めて新興国でインターネットと情報端末が 2010 年代に急速に普及し，とくに 2010 年代半ば以降には「デジタル化の時代」が到来しつつある［伊藤 2020：44–45］。インドネシアでも経済発展は顕著で，世界銀行は 2020 年 7 月にインドネシアを下位中所得国から上位中所得国に引き上げた。なお東南アジアではマレーシアとタイがすでに上位中所得国に入っている[4)]。経済発展とともにインドネシアにおいてもデジタル化の進展がいちじるしい。2021 年 1 月のインターネット利用者は 2 億 260 万人に達し，前年と比べて 16％も増加している。全人口に対する普及率は 73.7％となる。インターネット利用者といってもパソコンよりもスマートフォンなどのモバイル機器を使っている人が圧倒的に多い。モバイル機器の利用者は 3 億 4,530 万人である。もちろん 1 人で複数の機器を持っていることから人口比では 125.6％になる。肝心のソーシャルメディア利用者については，1 億 7,000 万人で人口の 61.8％となる[5)]。インドネシアの中央統計局（BPS）によると 2021 年 9 月で生活に最低限必要な収入水準（貧困線）以下で暮らす貧困層は人口の 9.71％となっている[6)]。このような貧困層を除く人びとにインターネット利用者が幅広く普及していると考えることができる。インドネシア人の 1 日のソーシャルメディアの利用時間を調べた調査結果を紹介する（2021 年 1 月の調査で対象は 16 ～ 64 歳のインターネット利用者）。インドネシアは 3 時間 14 分で，世界平均の 2 時間 25 分を大きく上回っている。ちなみに 1 位はフィリピンで 4 時間 15 分，日本は 51 分で，この調査対象では最下位になっている[7)]。2 億を超えるインドネシアのインターネット利用者はどのようなソーシャルメディアを使っているのだろうか。Facebook の利用者が際立って多く，続いて YouTube，Instagram，Twitter という順番になる[8)]。YouTube の視聴者数はインド，アメリカに次ぐ第 3 位で 1 億 2,700 万人に達している（2022 年 1 月）[9)]。

4）世界銀行では 1 人当たり国民総所得（GNI）を基準として 4,046 ドルから 1 万 2,535 ドルまでの国を上位中所得国としている。
https://www.jetro.go.jp/biznews/2020/07/c264c2bdfb2cb36d.html（最終確認 2022/02/20）

5）2021 年 1 月時点のデータは以下を参照している。
Digital in Indonesia: All the Statistics You Need in 2021 ― DataReportal ― Global Digital Insights
https://datareportal.com/reports/digital-2021-indonesia（最終確認 2022/02/21）

6）https://www.bps.go.id/pressrelease/2022/01/17/1929/persentase-penduduk-miskin-september-2021-turun-menjadi-9-71-persen.html（最終確認 2022/02/21）

7）https://datareportal.com/reports/digital-2021-global-overview-report（最終確認 2022/03/06）

8）https://gs.statcounter.com/social-media-stats/all/indonesia/#monthly-202101-202201（最終確認 2022/02/21）

9）https://www.statista.com/statistics/280685/number-of-monthly-unique-youtube-users/（最終確認 2022/02/21）

インドネシアにおけるソーシャルメディア研究として先ず注目されるのは『ソーシャルメディア時代の東南アジア政治』［見市・茅根編著 2020］に収められた，インドネシアにおいてソーシャルメディアが2019年の大統領選挙キャンペーンでどのように使用されたかを論じる2本の論考である。2020年のアメリカ大統領選挙で話題になったようなフェイクニュースが，その前年にインドネシアでも飛び交っていた。本名［2020］は現職のジョコ・ウィドド大統領側による世論扇動にソーシャルメディア，とくにFacebookが大きな役割を果たしたことを明らかにする。また，茅根［2020］は対立候補であるプロボウォ側のイスラーム説教師ソマドがInstagramとYouTubeを駆使して，一部のムスリムの間で支持拡大に成功したことを明らかにした。ソーシャルメディアといっても，そのコンテンツによってFacebookが使われたり，YouTubeが使われたりする。たとえばソマドの人気説法のような長い動画はYouTubeにアップロードされる。2人の報告のどちらにしても，受け手の感情に訴えるような内容がソーシャルメディアに頻出した。否定的なイメージを「敵」に付与して，「味方」を増やすという選挙キャンペーンの常套手段にはソーシャルメディアがとても使いやすい道具であることを示している。

次章から取り上げるスンバ島では筆者の知る限り，感情を煽るような形でソーシャルメディアが大規模に悪用されたことはないと思う。「敵」を設定するのではなく，自分たちの文化を強調して自らのアイデンティティを高めようとする傾向が強い。また，本稿は一般的に都市的現象と考えられるソーシャルメディア研究と，スンバ島というインドネシアの「辺境」とみなされる地域の研究を繋ごうという目的で始められたものである。現在のスンバ社会を理解するため，スンバの社会経済的概況と民族誌的背景を次章で取り上げる。

3　スンバ社会の現況

スンバ島は，インドネシア東部を東西に広がる小スンダ列島の中の1つの島で，バリ島とティモール島のほぼ中間に位置する。スンバ島は行政上，東ヌサ・トゥンガラ州（Provinsi Nusa Tenggara Timur，以下NTTと省略）に属し，東スンバ県と，中部スンバ県，西スンバ県，南西スンバ県という4つの県に分かれている。島全体の面積は約11,000km^2（四国の約5分の3）で，島全体の総人口がわずか約78万人（2020年）なので，1km^{2}当たりの人口密度が71人と低く，州の中でも人口密度が低い島である。さらに県別でみると，人口密度がもっとも低いのが東スンバ県の35人で，もっとも高いのが南西スンバ県の210人である［Badan Pusat Statistik Provinsi Nusa Tenggara Timur 2021：13, 108, 111］。参考としてインドネシア全体を考えると2021年の人口密度は142人である［Badan Pusat Statistik 2022：89］。

このような人口密度の低さはスンバ島の自然環境に起因している。島全体がサバナ気候に属し，インドネシアのなかでも乾燥した地域として知られている。とくに東スンバ県はオーストラリアから吹いてくる乾いたモンスーンの影響を受け，4月から9月頃にかけての

乾季はほとんど雨が降らず非常に乾燥している。スンバ島の土壌はおもに石灰岩質のため農業には適さない地域が多い。東スンバ県において水田は一部にみられるだけで，生業の中心はトウモロコシや，イモ類，豆類の栽培である。いっぽう比較的雨量の多いスンバ島西部では水田耕作がひろく行われている。スンバ島全体で草原を利用した家畜飼養が盛んで，馬のほか水牛・牛・豚・鶏などの家畜が飼育されている。

このように低い農業の生産性と，農業以外の産業がほぼ存在しないため，スンバ島はインドネシアのなかでも貧困が大きな問題となっている。2021 年にインドネシア統計局が出した統計書にもとづき貧困率[10]をみていこう［Badan Pusat Statistik 2021a］。インドネシア全体では 10.14％で，NTT の貧困率は 20.99% であり（つまり 5 人に 1 人が貧困者となる），これは全 34 州のなかで 3 番目に高い数字である。全国で貧困率がもっとも高いのがパプア州の 26.86％で，次が西パプア州の 21.84％である。貧困率をスンバ島の県レベルで比べると，中部スンバ県が 34.27％，東スンバ県が 29.68％，西スンバ県が 28.39％，南西スンバ県が 28.18％である。

貧困率とともにある地域の開発の度合いを比較するための指数として，インドネシア統計局は IPM（Indeks Pembangunan Manusia，人間開発指数）を発表している。これは，平均年齢と就学年数，個人支出という 3 つの指標を組み合わせて算出される。2021 年はインドネシア全体で 72.29 であるのに対し，NTT は 65.28 しかない[11]。これはパプア州の 60.62，西パプア州の 65.26 に次いで全国で 3 番目に低くなっている。スンバ島の 4 県で比べると，最高が東スンバ県の 65.74 で，最低が中部スンバ県の 61.80 である。このような IPM の低さはスンバ島の教育水準を反映している。中学校の純就学率[12]は全国で 80.59% であるのに対して，NTT は 69.99％で，高等学校の純就学率は全国が 61.65％で，NTT が 54.29％（全国で 4 番目に低い率）である［Badan Pusat Statistik 2021b：137］。

このように経済的に貧しいスンバ人[13]はインドネシアの多数派であるジャワ人とはまったく異なる文化をもっている。その特徴の一つがマラプ（*marapu*）[14]に対する信仰である。マラプは多義的な言葉であるが，一般に「祖先，祖霊」の意味である。キリスト教化が進む前は，中核村単位でマラプへの供犠儀礼が大規模に執行されていた。国家公認の宗教（agama）[15]であるイスラームやキリスト教に対して，スンバ人はスンバ独自の信仰をインド

10）貧困線（最低限の生活を送る上で必要となる 1 人当たりの月額）以下で暮らす人の比率。たとえば NTT の貧困線は Rp 423,505（約 3,400 円）である。

11）https://www.bps.go.id/indicator/26/413/1/-metode-baru-indeks-pembangunan-manusia.html（最終確認 2022/03/06）

12）インドネシアでは 1994 年から中学校までが義務教育となった。

13）スンバ人（スンバ語で *tau Humba*）は，スンバ島の圧倒的な多数派民族集団である。スンバ島には，スンバ人以外に周辺のサブ島などから渡って来た住民も居住している。

14）本稿ではスンバ語だけイタリック体にしている。

15）インドネシア政府が認めた宗教は，イスラームと，プロテスタント，カトリック，ヒンドゥー，仏教，儒教という 6 つである。なお，建国五原則パンチャシラ（Pancasila）の 1 つに「唯一神（Tuhan）への信仰」が掲げられている。

ネシア語で「マラプ教（Agama Marapu）」と呼んでいる。インドネシア全体でスンバ島のように地域固有の宗教が現在まで存続している地域は少ない。とはいえ，スンバ全体で「近代化」の具体的な表れとしてキリスト教，とくにプロテスタントに改宗するスンバ人が年々増加している。たとえば東スンバ県では，1986年に人口の37.6％がマラプを信仰していたが，2021年にはわずか6.5％まで減少している[16]［Kantor Statistik Kab. Sumba Timur 1987：68；Badan Pusat Statistik Kabupaten Sumba Timur 2022：117］。スンバにおいては学校教育という「近代化」の装置のなかで，キリスト教に改宗することが当たり前と感じられるようになっている。マラプ信仰は周縁的な存在となり，中学校入学時か，高校へと進学する過程で教師によって洗礼名が付与され，生徒はキリスト教に改宗させられる。子ども本人にも学校教育のなかでマラプ祭祀と村での生活を遅れたものとみなす価値観が植えつけられ，キリスト教徒になることを当然視するようになる。その結果，親と祖父母の世代が改宗しないのに，子どもだけが中学校進学以降に改宗するケースが多い。

東スンバ県でマラプを信仰する多くの夫婦が婚姻証明書（Akta Perkawinan）を持っていないという事実が明らかになった［小池 2017b］。インドネシアの法律上，カップルは属する宗教に従って婚姻しないと正式な夫婦と認められないし，婚姻証明書が発行されない。さらに，生まれた子どものために夫婦が出生証明書の手続きをしようとした場合，正式な婚姻ではないので父親の名前は記載されず，母親の名前しか証明書に記載されないことになる。このように公認宗教に属していないという理由で，マラプ信仰のスンバ人には国民としての権利が認められていなかった。また，マラプ信仰者の子どもは中等教育と高等教育に進学するのが難しい，また身分証明書の宗教欄が空欄のため公務員への就職が困難であるという社会的差別も受けていた。

マラプ儀礼を執行するスンバ人も減り，スンバの文化は大きく変化している。一方で，独特なとんがり屋根をもった慣習家屋（マラプの家）と，家屋の前に建てられた支石墓（ドルメン），さらに東スンバ県の一部で織られている具象的な模様が描かれた絣織物は，今日でもスンバ島のあちこちで見ることができる。これらはスンバらしさを構築する重要な要素であり，観光資源にもなっている。2010年代以降に進んだ観光化[17]はホテルや観光施設の建築など経済発展には寄与しているが，同時にスンバ人の周縁化も推し進めている。その典型的な例は，投資家による投機目的の土地の買い占めである。たとえば東スンバ県の県都ワインガプから海岸に沿った道を西に向かうと，海岸部の土地がずっと柵で囲われているのがよく分かる。スンバ島内外の投資家が将来の観光開発を期待して住民から安い価格で土地を買い取り囲っているのである。

このようにインドネシア全体で考えればスンバ島の住民が貧しいことは確かである。残念ながら，スンバ島における2章で紹介したようなインターネット利用者の比率とモバイ

16）統計書には「その他の信仰（Aliran Lainya）」または「その他（Lainya）」と記載されている。
17）スンバの観光化とメディアの関連については小池［2020a］で論じている。

ル機器（スマートフォン）の保有率を示す調査データは入手できない。ジャワ島の村落部と比べると普及率は低いかもしれないが，2010 年代後半になってスンバ島を訪れると，高校生の世代から中年世代までスマートフォンをもっている人が多いことを実感する。2010 年に東スンバ県ハハル郡カダハン村とウンガ村[18]で実施した調査では合計 100 世帯のなかで 41 世帯に携帯電話をもっている人がいた［小池 2012］。その後，携帯電話がスマートフォンに変わっていくとともに，その保有率も増えていると考えられる。

この章で明らかにしたスンバ島の概況を背景にして，次章でスンバ島の住民がどのような動画を YouTube にアップロードしているのか，具体的に調べていくことにする。

4　YouTube 動画に表れたスンバ人アイデンティティ

(1) Lii Marapu プロジェクト

スンバに関連して多くの動画がアップロードされているなかで，最初に取り上げるのは，Lii Marapu Project[19]（マラプ伝承プロジェクト）というチャンネル[20]である。これは「東スンバのマラプという少数派の宗教を信仰している人たちの儀礼と文化，音楽」と説明されている。このプロジェクトは Sumba Integrated Development（SID，スンバ統合開発）という NGO[21]が「伝統的なマラプ文化財の再活性化」（Revitalising traditional Marapu cultural assets）という題目で Voice[22]というオランダの国際的 NGO に申請し始まったものである。Voice から 24,891 ユーロの資金援助を受けた SID が Marungga Foundation[23]という NGO と協力して，スンバの伝統的な音楽文化の記録と継承を第一目的として活動を開始したのが Lii Marapu プロジェクトである。

最初に紹介するのは Lii Marapu Project（Marungga Foundation/Sumba Integrated development/Voice）という 3 分 9 秒の短い動画である[24]。この動画のナレーションで，マラプが「スンバ人固有の宗教」（agama asli orang Sumba）であり，「人間と創造神」と「人

18）1985 ～ 88 年にこれら 2 村（当時はウンガ村）で筆者は人類学的調査を実施した。その調査結果は小池［2005］参照。

19）*lii* は多義的な言葉で，祖先から代々伝えられてきた「神話，伝承，儀礼，祈りの言葉」を意味する。

20）https://www.youtube.com/c/AtaRatu
（最終確認 2022/03/24，2018 年 3 月 21 日登録，チャンネル登録者数 2,690 人）

21）2010 年に設立された NGO（インドネシア語で LSM）で，とくに子どもと女性のエンパワーメントを目的としている。本部は東スンバ県の県都ワインガプにある。
https://www.devex.com/organizations/submа-integrated-development-sid-143927
（最終確認 2022/03/18）

22）Voice はオランダ外務省から資金提供を受けている。
https://voice.global/grantees/revitalising-traditional-marapu-cultural-assets/（最終確認 2022/03/17）

23）正式名称は Yayasan Masyarakat Tangguh Sejahtera（福祉強靱社会協会）である。東スンバ県だけでなく東ヌサ・トゥンガラ州の他の県でも活動している。

24）https://www.youtube.com/watch?v=PbMjxXpqnPs
（最終確認 2022/03/18，2022 年 1 月 27 日公開済み，394 回視聴）

間同士」,「人間と自然」という3つの調和的な関係を尊重すると説明する[25]。「新体制」以降,マラプ信仰者が国家から差別され,一般社会から「迷信」(aliran sesat)や「不信仰者」(kafir[26])とみなされてきた。しかし，このプロジェクトは東スンバ県におけるマラプ信仰者の政治と教育への参加を保証し，国家と一般社会から差別されることなく，国民としての権利が十分に保障されるようにすると,その目的を語っている。このような語りに合わせて映像は,スンバ独特の家屋から始まり，葬送儀礼やマラプへの祈願，そして最後はマラプ信仰者の権利擁護のための会合の映像（これまでアップロードされた動画を編集したもの）が出てくる。

このチャンネルには全部で84本の動画がアップロードされている。そのなかにはジュンガ（*jungga*）というスンバの弦楽器を弾きながらスンバ語で歌唱する歌（*lúdu*）が多いが,スンバの儀礼とマラプを説明する内容の動画も含まれている。また，Marapu/Ancestors Part 1_Low Resolution Version（「マラプ／祖先第一部」低解像度版）[27]は2018年に東スンバ県リンディのParai Yawangu[28]という中核村で挙行された死者儀礼の貴重なドキュメント映像であり,*papanggangu*という死者の付き人[29]に焦点を当てている。これらの動画には,Joseph Lamont[30]という民族音楽学の研究者が録音と制作に参加している。

Lii Marapuプロジェクトは，最初に取り上げた映像の後半に描かれた周縁化したマラプ信仰者に対して進める支援活動も指している。これは3章で取り上げたように「二級市民」のような扱いを受けているマラプ信仰者に関して「政治参加の強化を通して東スンバ県のマラプ信仰者のための教育と社会的サービスへのアクセス向上」を目的としたプロジェクトである。この活動についてはYouTubeではとくにアップロードされた動画はないが,Facebook上ではMarungga Foundationのアカウントでその活動が詳細に報告されている。県レベルの講習者を養成するための講習会が東スンバ県ワインガプで開催されたことを伝える記事が参加者の集合写真とともに投稿されている（2021年2月1日付け)。

(2) ウィラ・ワチャナ・スンバ・キリスト教大学の学生制作短編映画

ウィラ・ワチャナ・スンバ・キリスト教大学（Universitas Kristen Wira Wacana

25）このようなマラプの説明は，スンバ人固有の考えというよりも，ある程度学歴をもった人が語る近代的なマラプ観である（5章参照)。

26）カーフィルはもともとアラビア語で，イスラーム以外の宗教を指す言葉である。スンバ島ではキリスト教徒がマラプ信仰者に対して侮蔑語として使ってきた。

27）https://www.youtube.com/watch?v=UHU2asSbS6s
（最終確認2022/03/18，2020年3月9日公開済み，1,187回視聴，5分4秒）

28）人類学者Forthが1970年代に調査した地域である［Forth 1981］。現代でもマラプ信仰者の割合が多い。

29）死者の付き人が使われるのは貴族層（*maràmba*）の葬儀だけである。リンディでは*papanggangu*だが，筆者の調査地であるハハル郡では*pahapanggangu*と呼ばれる［小池 2005：167］。

30）オーストラリア出身で，東京芸術大学に留学していた経歴をもっている［Facebookで知り合いメッセージを交換した］。

Sumba，略称は Unkriswina）は，1997 年に設立されたウィラ・ワチャナ・スンバ・キリスト教経済単科大学（Sekolah Tinggi Ilmu Ekonomi Kristen Wira Wacana Sumba）が 2015 年に改組して誕生したスンバ島で唯一の大学である。

ここで取り上げる短編映画（film pendek）は，科学技術学部の情報技術研究プログラム（Program Studi Teknik Informatika）[31] に所属する学生がマルチメディア（Multimedia）授業の実習として制作したものである。学生みずからが出演し，編集・制作した作品が Multimedia Unkriswina Sumba[32] というチャンネル名でアップロードされている。このチャンネルには全部で 30 本の動画がアップロードされていて，そのうち 13 本が短編映画であり，その他，大学行事の動画などが含まれている。短編映画のなかからスンバの社会的・文化的背景が色濃い作品を紹介しよう。視聴回数が 36,078 万回ともっとも多いのが Film pendek － “Palai nganddi secara paksa karna dipaksakan”（短編映画「強制されるので強制的に連れ去る」）[33] であり，これを最初に取り上げる。先ず分かりづらいタイトルを説明する。Palai nganddi は東スンバ県で広く使われるカンベラ語［Kapita 1982］では *palai ngàndi* と表記される。「連れ去る」（インドネシア語では bawa lari）が意味である。これはスンバにおける婚姻の一つの方法として慣習で認められている［Kapita 1976：125］。女性側の親の合意を得ないまま男性が女性と駆け落ちし，その後，男性側と女性側の間で婚資の交渉 [34] が始まることになる。しかし，このような慣習とは違う，一種の強制婚（kawin paksa）ないしは誘拐婚（kawin tangkap）がこの作品で描かれている。このようなスンバの慣習を知らずに映画を観ると，インドネシア人であっても理解できないような筋立てになっている。

舞台はワインガプ近郊の農村で，若い女性が 3 人組の男性に強引に男性の家に連れて行かれる。その後，女性の親族が男性の家を訪ね，結婚に向けての話し合いの日程が相談される。しかし，女性は親族に結婚したくはない，無理矢理に結婚させられれば自殺すると伝える。その後，女性側は村長（Lurah）と相談し，村長とともに男性側の家を訪問する。話し合いのなかで，女性は他に好きな人がいると話し，もう 1 人の当事者である男性もこのような結婚は望まないと自分の意思を示す。その結果，強引に進めようとしていた男性

31）この大学は経済経営人文学部と科学技術学部，教育学部という 3 学部，そして 10 研究プログラムから構成される。
https://unkriswina.ac.id/unkriswina/admisi-program-sarjana/（最終確認 2022/03/19）

32）https://www.youtube.com/c/MultimediaUnkriswinaSumba2019
（最終確認 2022/03/27，2020 年 1 月 30 日登録，チャンネル登録者数 8,100 人）
収められている動画の視聴回数は 3.6 万回から 100 回までさまざまである。やはり短編映画が視聴回数の上位を占めている。

33）https://www.youtube.com/watch?v=lKJGzP-pVwM&list=PLJ5oA5Jvwev6PYDJxihWFfEaAWd97QzYz&index=2（最終確認 2022/03/19，2020 年 4 月 8 日公開済み，12 分 15 秒）

34）スンバでは慣習に従い夫側と妻側の間で婚資の交換が行われ，初めて婚姻は正当なものと社会的に承認される。婚資は婚姻の当事者である夫婦とその間に生まれた子どもの帰属に関係する。婚姻儀礼において夫側は馬と金属の装飾品を妻側に贈り，それと交換に妻側は豚と布・織物を夫側に贈るのである［小池 2005：153］。

の父親も仕方なく結婚話を断念する。強制的に結婚させられそうになった2人は慣習上，結婚すべき親族関係にあるので，両方の家族が和解し，映画は終る。

映画のなかで系譜関係は明示されていないが，男性の母親は連れ去られた女性の父方オバ（父親の姉妹）に当たる。つまり，この男性にとって彼女が親族名称上の「母方交叉イトコ（母方オジの娘）」［小池 2005：134-140；2017a］[35] であることが，この連れ去り事件の背景になっている。一般の日本人の目からみたら，映画で描かれているケースは誘拐監禁事件に当たり警察が介入すべき刑事事件であるが，スンバでは今日でも親族間の問題として処理されることが多い。この映画の描き方には雑な部分が目立ち，出演学生の演技も上手いとはいえないが，女性連れ去り事件とその解決法（実際には女性が渋々と親の意向に従い，そのまま結婚に至るケースもある）自体は，現代のスンバ社会が抱える問題の一端を描いている。

この映画に対して42件のコメントが寄せられていた。出演者，とくに連れ去られた女性役の演技に関して「もっと真剣に」という注文が目立った。また，内容面について「『連れ去る』は2人が好き合っているのが前提で，両方の家族が結婚を同意しない場合」というスンバの慣習を知っている立場からの批判も書かれていた。

次は最初の作品と同様に結婚を取り上げたFilm Pendek - Ana Tuya Ana Mamu（短編映画「母方オジの子，父方オバの子」）[36] である。この映画は全編スンバ語が使われていて，インドネシア語の字幕が出てくる。題名から分かるように，すでに説明した母方交叉イトコ婚がテーマになっている。YouTubeには次の粗筋が書かれている。「この話はスンバ島の文化にもとづき，それぞれの子どもを結婚させようとする兄弟と姉妹に関する話である。このような結婚の約束は，子どもがまだ小さい時から結ばれている。生活がすでに近代的になるとともに，このような文化は子どもが婚約に従うか，従わないかを選択する時，ジレンマを生じさせる。」映画は田園風景を映し出した後，妹が夫とともに兄の家に来て，息子と兄の娘エルリンとの結婚の話を切り出す場面からストーリーが始まる。もうすぐエルリンが高校卒業だから小さい時からの約束通り，兄はその話を進めようと承諾する。その3か月後に高校教師が来て，エルリンは学校でもっとも優秀な生徒で奨学金が出るからと，ジョクジャカルタの大学への進学を勧める。しかし，父親はすでに申し込まれた結婚話があるからと，それを明確に断る。その後，妹夫婦は息子を連れて来て，これから結婚のための話（婚資の交渉）を進めていこうと両者は合意する。その会話の間，エルリンは下を向いて黙っているだけである。その後，教師は校長とともに来てエルリンの父親を説得しようとするが，父親の考えは変わらないので教師は進学の話を諦める。その数年後，エル

35）スンバ島を含む東インドネシアでは，レヴィ＝ストロースの『親族の基本構造』［2000］が論じている一般交換が社会全体を律する重要な役割を果たしている。単純化していえば，男性は母方交叉イトコを含む親族カテゴリーに含まれる女性との結婚が規定されている。

36）https://www.youtube.com/watch?v=aZKGomNdJIY
（最終確認 2022/03/19，2021年2月16日公開済み，25,301回視聴，15分36秒）

リンは結婚し，小さな子どもが 2 人いる場面で映画は終る。

最初の作品と同様にエルリンが自分の意思を表明し，その言葉に従って父親も進学を認めるという結末かと予想して観ていたら，エルリン自身が一言も発言しないままストーリーは展開した。YouTube の内容紹介には結婚するかどうかの「ジレンマ」と書かれていたが，それが描かれることはなく，彼女の父親の言葉だけが聞こえてくる映画だった。この映画に対して 47 件のコメントが書かれていたが，否定的なコメントは 2 件だけで，他は前の作品とは違い,「良くできた」(mantap) とか「かっこいい」(keren) という好評価ばかりだった。批判的なコメントの 1 つには,「これは娘の親が家畜を欲しいだけで，子どもの将来を考えていない」と書かれてあり，もう 1 件は，理由なく「このビデオは良くない，削除」と厳しい意見だった。仮にスンバの大学生を集めて，この映画を視聴した後，結末について意見を聞くフォーカス･グループ･ディスカッション（Focus Group Discussion）を実施すれば，このような批判的な意見がどの程度出るのか，興味深い課題である。

このチャンネルにアップロードされている短編映画のなかには，スンバ社会における奴隷（*ata*，インドネシア語で hamba）[37] の問題，とくに奴隷も教育を受ける権利を取り上げた Film Pendek - INNA WELLI TANAH HUMBA（Mama dari Tanah Sumba）（短編映画「スンバから来た母」）[38] もある。この映画は Tamu Umbu（高位の貴族の敬称）がもう奴隷としての地位を廃止すると宣言して終る。スンバ社会の深層に根付く奴隷の問題の描き方としては明らかに物足りない。このようにスンバの大学生が現実にスンバで問題になっている強制的な婚姻と，慣習に基づく親族間の結婚規則，奴隷制の存在を取り上げているという意味では，これら 3 作品に取り組んだ学生にとって身近な問題にアプローチしていると考えられる。ただし，それぞれの描き方があまりに表面的で，学生らしい視点から現実の問題を掘り下げていない点が残念である。また，学生が制作した 13 本の短編映画に共通する特徴は，そのターゲットが同じ文化を共有するスンバ人向けになっている。スンバのことをよく知らない人が視聴したら，スンバ的背景がまったく説明されていないので，よく理解できない筋立てになっている。ただし，使用言語はインドネシア語の作品もスンバ語（インドネシア語字幕）の作品もある。

(3) ランボヤの教師が制作した短編映画

次に紹介するのは，スンバ島を舞台にして高校生の学校生活を描いていても，スンバ島以外の人たちが観て楽しめるような一般性をもった作品になっている。この点で大学生の短編映画とは違っている。Pak Guru Hits Sumba（スンバのヒット先生）というチャンネ

37）現在のスンバ社会においてこの言葉が公然と使われることはないが，貴族層に従属し，結婚などで自己決定権をもたない人びとは存在する（経済的にはある程度自立している場合もある）。ただし，このような階層制の問題は地域的な多様性が大きく，一概に論じるのは難しい。

38）https://www.youtube.com/watch?v=13hNypYwYWY&t=39s
（最終確認 2022/03/20，2020 年 2 月 19 日公開済み，34,628 回視聴，13 分 19 秒）

ル[39]は登録者数 11.8 万人で，すでに紹介した Multimedia Unkriswina Sumba の 10 倍以上である。2020 年 6 月 13 日にアップロードされた Gadis Kampung Menjadi PUTRI SUMBA（「村の娘がミス･スンバになる」）から，2022 年 2 月 19 日の最新作 Film NTT 2022：“RASA”（2022 年 NTT 映画「感情」）まで合計 17 本の短編映画がアップロードされている。脚本から編集まで西ランボヤ第一公立中学校（SMPN1 Laboya Barat）の教師であるソアリヒン・アスディン（Soalihin Asdin）が担当している。

最初に 1,206,788 回とこのチャンネルでもっとも視聴されている Adi Nona（「若い娘」）[40]の粗筋を紹介する。仲良し女子高校生 3 人組の登校場面から始まる。その 1 人エステル（Ester）は生徒会会長に選ばれていて，遅刻した 2 人に草むしりを命じる。その日は成績発表の日で翌日から休みに入るので，3 人でピクニックに出かける約束をする。草原で踊って楽しんでいると，2 人の友だちがバイクで通り過ぎたので，バイクに乗って追いかけようとする。海岸で小学生にクリスマス･ソングを歌い，英語を教えている 2 人とその弟に会う。みんなで一緒に英語を教えるようになる。スマートフォンで写真を撮っていると，1 人が腹痛になり保健所（Puskesmas）に行く。その後，高校生たちはみんなで協力して村の子どもたちに英語を教えるようになる。

前に紹介した大学生制作の短編映画と正反対の雰囲気をもつ映画で，実際の女子高校生が等身大で明るく生き生きとそれぞれの役を演じている。YouTube にジャンルとして「教育･コメディ」と書かれているように，エステルという主人公が少しコミカルな役割を果たしている。舞台となっているランボヤ（Lamboya）は西スンバ県の県都ワイカブバックから離れた「僻地」（pelosok）の村落部であるし，人びとは自然に恵まれた環境のなかで暮らしている。ただ，女子高校生からはそのような感じをまったく受けず，都市部の女子高校生と同じような雰囲気で友だち同士でふざけ合っている。少なくともこの映画からは，貧困とか慣習の束縛などの否定的な面を描こうという制作者の意図はまったく感じられない。登場する高校生はピクニックに行く時にバイクを使っていて，それはジャワ島と同じである。

このように高校生の生活の明るい面に焦点を当てるのは続編の Film Pendek NTT：ADI NONA 2（NTT 短編映画「若い娘 2」）[41]も同様である。YouTube に書かれた説明では，アートの分野で私たちの地域を発展させることができると制作者は書いている。また，映画でスンバ島の自然の美しさと観光をプロモーションしたいという。このように前向きに取り組む高校生を主人公にすることで，制作者はスンバという地域性を超えた人びとにこ

39）https://www.youtube.com/channel/UCrRAugyAxDL-DinUfORoZsA/featured
（最終確認 2022/03/25，2020 年 4 月 5 日登録）
40）https://www.youtube.com/watch?v=a4PzKfqU49Y
（最終確認 2022/03/20，2020 年 12 月 17 日公開済み，16 分 57 秒）
41）https://www.youtube.com/watch?v=S_-1LMKNNKI&t=58s
（最終確認 2022/03/25，2021 年 2 月 27 日公開済み，909,043 回視聴，30 分 42 秒）

の映画を楽しんでもらおうとしている。その意図は視聴者に伝わっていて，第一作と続編のコメント（1,838 件と 1,815 件）をみても好意的なコメントばかりである。その典型は続編のコメント「インドネシアのテレビで放送するのがふさわしい。すべてが自然で作りごとのようにみえない」によく表れている。制作者はコメントそれぞれに返信していて，YouTube がソーシャルメディアであることを示している。

映画のなかで具体的に名前は出ていないが，ランボヤでは「英語が村に入る」（English goes to Kampung）[42] という NGO が村の子どもたちの英語教育に力を入れていて，その活動が「若い娘」の後半で取り上げられている。この最後にマネージャーとしてクレジットされている，英語教師ロスウィタ・アスティ・クラ（Roswita Asti Kulla）が団体の代表を務めている。ちなみにランボヤの海岸にある高級リゾートホテルのニヒ・スンバ（Nihi Sumba）が地域貢献の一環として，この活動に資金援助している。

次に取り上げるのは，Film Pendek Sumba “Jalan Kaki 12 km”（スンバ短編映画「徒歩で 12km」）[43] は, 村の貧しい姉妹を主人公にしたドキュメントである。姉妹の親は貧しく自転車を買うこともできないので，2 人は朝早く起きて，12km の道を歩いて中学校に通う。平坦な道ではなく山を越えなくてはいけないし，道中，蛇やサソリが出ることもある。2 人の通学の写真を中学校の先生（制作者のソアリヒン･アスディン）が Facebook にアップロードし，それをみたジャワの人から自転車が姉妹のために寄贈されたという実話の映像化である。ナレーションは 2 人の中学生の勉強に対する前向きな姿勢を強調しているが，前提となる内陸部の村に住む子どもたちが直面する厳しさもきちんと描かれていて，その点，最初に紹介した「若い娘」シリーズとは違っている。また，Perempuan SUMBA bercerita（「スンバの女性は語る」）[44] は南西スンバ県東ウェウェワ郡マレダ･カラダ村で子どもたちのために学校外の教育活動に献身する女性エンプリアニ・マギ（Empriani Magi）を描いたドキュメントである。この 2 本の短編映画のようにスンバの子どもたちの現実を描いた動画はドラマ仕立てと比べて視聴回数でははるかに少ないが，スンバの現状を知るためにはとても貴重である。

（4）多様な YouTube 動画

スンバの文化の記録化と継承を目指した動画と，短編映画を取り上げたが，スンバを取り上げた YouTube 動画は多様である。もちろん, テレビ局などのマスメディアの番組がアップロードされていたり，スンバ島外の人が描いたスンバの動画も多い。この節では，スンバ島に住む人が開設した動画チャンネルをいくつか紹介しよう。

42）https://nihi.com/sumba/philanthropy/english-goes-to-kampung（最終確認 2022/03/20）
43）https://www.youtube.com/watch?v=7fMxCfSBbkE
（最終確認 2022/03/25，2020 年 10 月 6 日公開済み，71,455 回視聴，6 分 56 秒）
44）https://www.youtube.com/watch?v=QFlrKwLa4JI
（最終確認 2022/03/20，2020 年 6 月 28 日公開済み，20,202 回視聴，13 分 27 秒）

Sinetron Sumba（「スンバのシネトロン」）[45] というチャンネルは，北マルク州西ハルマヘラ県出身で西ジャワ州の神学校でキリスト教を学び，現在は西スンバ県ワイカブバックで高校教師をしているフェリックス・ジャング（Felix Djangu Jr.）が開設した。シネトロン（sinema elektronik の略語）[46] という名前が示すように一般のテレビ局が放送するテレビドラマを意識して制作された短編映画を 13 本（そのなかで 5 本は予告編）アップロードしている。FILM PENDEK NTT: DI SUMBA ADA CINTA - PALING SEDIH SEPANJANG MASA, KAMU AKAN MENANGIS!（NTT 短編映画「スンバに愛がある」これまででもっとも悲しく涙を誘う）[47] というタイトルから分かるように不治の病にかかった女性が登場する恋愛物である。ただし，最新作 FILM SUMBA 2022：Seamin Tak Seiman（2022 年スンバ映画「宗教が異なる一つのアーミン [48]」）[49] はスンバの多数派であるキリスト教徒とムスリムとの反目と融和を描いている。なお，まだ数は少ないが，「スンバ･コメディ」というジャンルも登場している。Wunga Rhato chanel というチャンネル [50] には KOMEDI SUMBA ‖ Woi Katopo lucu ‖ngakak‖（スンバ･コメディ「オイ，おかしな刀」）[51] があり，スンバ語で刀をめぐる掛け合いが展開する。スンバ・コメディはこのチャンネル以外でも数多くアップロードされている。

これまで取り上げたようなドラマ仕立ての動画だけでなく，音楽のチャンネルもある。中部スンバ県の県都ワイバクル（Waibakul）に自分たちのサンガル・オサ（Sanggar Osa）[52] を作って活動するミュージシャン，エルソン・ウンブ・リアダ（Elson Umbu Riada）は 2 つのチャンネルを YouTube に登録している。OSA ELSON OSA - OSA MUSIC STUDIO[53]

45）https://www.youtube.com/c/SinetronSumba/about
（最終確認 2022/03/21，2021 年 5 月 31 日登録，チャンネル登録者数 8,630 人）

46）さまざまなタイプのテレビドラマが放送されているが，いわゆるメロドラマが主流を占めている［小池 1995b］。

47）https://www.youtube.com/watch?v=YUkvG7vojO4&t=774s
（最終確認 2022/03/21，2021 年 8 月 19 日公開済み，45,605 回視聴，30 分 13 秒）

48）インドネシアにおいてアーミン（amin）は祈りの最後にキリスト教徒でもムスリムでも「同意」の意味で唱える言葉である。

49）https://www.youtube.com/watch?v=0p5VCrOvL-Q
（最終確認 2022/03/25，2022 年 3 月 19 日公開済み，4,120 回視聴，30 分 32 秒）

50）https://www.youtube.com/channel/UCQiXRqKdG1iBYMHEKKiIN0g
（最終確認 2022/03/21，2021/01/30 登録，チャンネル登録者数 1,000 人）

51）https://www.youtube.com/watch?v=9OCoqlDxotA&t=84s
（最終確認 2022/03/21，2021 年 11 月 6 日公開済み，47,774 回視聴，8 分 42 秒）
なお ngakak という単語については意味不明である。

52）インドネシア語の sanggar は訳しづらいが，インドネシアの芸能を考える上で重要な概念である。サンガルは伝統音楽や舞踊などを学ぶ場（教室）でもあり，同時に，そこに集う人びとの集団も指す。タウフィック・ダルウィスという舞台芸術家はサンガルという語には上下関係が含意されていると指摘する。
https://jfac.jp/culture/features/f-ah-tpam2019-taufik-darwis/（最終確認 2022/03/21）

53）https://www.youtube.com/user/Elson1980able
（最終確認 2022/03/21，2009 年 6 月 20 日登録，チャンネル登録者数 36,600 人）

と OSA MUSIC STUDIO[54] である。後者は多くの動画をアップロードしているが，そのなかにはイギリスのサッカーなどスンバとは関係ない動画も含まれているので，2009 年から始まっている前者だけを取り上げる。200 本もの動画がアップロードされ，そのなかには音楽だけでなく，スンバ島，とくに中部スンバ県の文化（巨石墓や儀礼，踊りなど）を紹介する動画も含まれている。彼が演奏する音楽はジュンガ（Lii Marapu プロジェクトの節で紹介）というスンバの弦楽器を弾きながらスンバ語で歌う伝統音楽からギターの弾き語りによるバラード，バンドで歌う音楽（民族楽器とのフュージョンも）まで多様で，スンバ語の歌もインドネシア語の歌もある。また，さまざまな音楽家やアーティストとも共演していて,「ダンシングティアーズ－エルソンウンブリアダ ft。大島直, 坪内淳」[55] ではオンラインで日本人のダンサーともコラボレーションをしている。彼の歌を通して伝わってくるのはスンバ島（スンバ語で *tana humba*）とその文化に対する強い思いである。それがもっともよく表れているのは Elson Umbu Riada - TANAH LELUHUR（music video）| mini album spirit 202OSA | Elson Osa（エルソン・ウンブ・リアダ「祖先の土地」）[56] というインドネシア語の歌である。スンバに対して祖先の土地と呼びかけ，土地も水も，山も海も，水田も畑も，稲もトウモロコシも祖先のものであり，私たちは祈りとともに守っていくと歌っている。

もう 1 人スンバ人（東スンバ県レワ出身）のミュージシャン，ヤント・マラプ（Yanto Marapu）はマラプという名のレゲエのバンドをジョクジャカルタで結成し，現在はバリ島を拠点に活動している[57]。Marapu Music Channel[58] というチャンネルには，33 曲の動画が収められている。そのなかの 1 曲 MARAPU - WELCOME TO SUMBA（Official Music Video）[59] はタイトル通り，観光プロモーション用の美しいスンバ各地の風景を映して,「スンバの地，マラプの地」（tanah Sumba, tanah marapu）にようこそ，山の上には「マラプの村々」があると, 歌詞のなかでマラプを強調している。ヤント･マラプはキリスト教徒だが, スンバを離れた彼にとってマラプという言葉はスンバと同一視されている。

敬虔なキリスト教徒であると同時に，自分たちの祖先の由来を突きとめようという気持ちが強く表れているのが東スンバ県ハハル郡のジェクソン・ハンバ・プル（Jekson Hamba

54）https://www.youtube.com/c/OsaMusicStudio
（最終確認 2022/03/21，2020 年 11 月 4 日登録，チャンネル登録者数 2,950 人）
55）https://www.youtube.com/watch?v=JGJup9nnNaI
（最終確認 2022/03/21，2020 年 5 月 23 日公開済み，1,365 回視聴，5 分 42 秒）
56）https://www.youtube.com/watch?v=DjBBBRLo6cU
（最終確認 2022/03/21，2022 年 3 月 17 日公開済み，112 回視聴，5 分 14 秒）
57）2020 年 6 月 26 日，Instagram の Galerisumba というアカウントで行われたライブで本人から確認。
58）https://www.youtube.com/c/MarapuMusicChannel/featured
（最終確認 2022/03/21，2015 年 11 月 6 日登録，チャンネル登録者数 15,600 人）
59）https://www.youtube.com/watch?v=1ZuX5J0V1vs
（最終確認 2022/03/21，2020 年 11 月 18 日公開済み，423,447 回視聴，5 分 55 秒）

Pulu）という人が開設した同名のチャンネル[60]である。その動画のなかでもっとも視聴回数が多いのがSEJARAH SUMBA LENGKAP ASAL - USUL LELUHUR ORANG SUMBA DI NTT[61]（「完全なスンバの歴史　NTTにおけるスンバ人の祖先の起源」）で，スンバ人の最初の祖先（マラプ）である男女がエデンの園で生まれたと最初に語る。その後，スンバの口承伝承において儀礼言語で語られる地名を中東各地の地名に当てはめ，世界史の教科書に使われるような挿絵や写真を使って祖先たちの移動ルートを映像化している。もちろんスンバ人も含まれるオーストロネシアン全体の拡散史に関する研究成果はまったく参照されていない。この動画に63件のコメントが寄せられているが，そのほとんどが「良くできた」（mantap）など肯定的な評価である。キリスト教に改宗したスンバ人にとって，『旧約聖書』に登場する話とスンバ人の起源が重なるのは受け入れやすいのであろう。

この他，スンバでの儀礼（葬儀，巨石墓のための石曳き，パソーラなどの祭礼）の動画が数多くYouTubeにアップロードされている。たとえば筆者の調査地であるウンガ村に焦点を当てても，いくつか動画が存在する。その一つがPenguburan SEJARAWAN Di SUMBA, KAMPUNG WUNGA（中核村ウンガにおけるスンバの歴史家の埋葬）[62]には，平たい石を使った墓の作り方が5分59秒の映像のなかに収められていて貴重である。また，ウンガ村の若い世代[63]が中心となって結成した中核村ウンガ共同体（Komunitas Parengu Wunga，略称はKO'MANUNGGA）の宣言式を描いた動画Deklarasi KO'MANUNGGA（中核村ウンガ共同体の宣言）[64]がDesa Wunga（ウンガ村）というチャンネル[65]に収められている。これは2020年1月22日に登録されたが，チャンネル登録者数 はまだわずか16人である。

5　YouTube動画増加の背景

ここで紹介したスンバに関連するYouTube動画は，数多くの動画のごく一部に過ぎない。たとえ部分的な紹介であっても，多様なジャンルの動画が数多くYouTubeにアップロードされていることが明らかになった。2010年代後半，とくに2019年頃からアップロードされる動画は増えていて，スンバで展開される最新の現象と呼ぶこともできる。とはいえ，本稿はソーシャルメディアという先端の動きだけを捉えることを目指していない。スンバに

60）https://www.youtube.com/channel/UCzSlfN7efe_0TKf4LQcbefw/featured
（最終確認2022/03/21，2018年5月31日登録，チャンネル登録者数2,310人）
61）https://www.youtube.com/watch?v=P-okjdGiMM8&t=4s
（最終確認2022/03/21，2021年1月29日公開済み，22,368回視聴，10分10秒）
62）https://www.youtube.com/watch?v=i9zVj8XKKpc
（最終確認2022/03/21，2019年4月15日公開済み，630回視聴）
63）メンバーのなかには大学卒が多い。
64）https://www.youtube.com/watch?v=QsjbBe3s0Q4
（最終確認2022/03/22，2020年1月22日公開済み，63回視聴，3分28秒）
65）https://www.youtube.com/channel/UCYYpseb9TtpwJZBbUF5Nlzg
（最終確認2022/03/25，2020年1月22日登録）

おける広義のメディア史を通時的変化，とくに 1980 年代後半以降の社会変化に結びつけて考える必要があると考えている。また，スンバ特有の現象ではなく，もっと広い地域的文脈に置いて考えなくてはいけない。第一に伝統とか慣習と称されるものが，どのようなメディア（口頭も含めた広義のメディア）によって継承されてきたのか，第二に，メディア，とくに娯楽と情報に関わる狭義のメディア（マスメディアとソーシャルメディア）の地域化と多様化の進展という点から考察することが重要である。

（1）伝統の継承と再活性化

筆者が最初にフィールドワークを実施した 1985 ～ 88 年のウンガ村において，古老（*bokulu*）と呼ばれた人たちは上位世代から口頭で伝えられてきた慣習（*horu*）[66] に従って，中核村（*paraingu*）単位の儀礼を実施していた。かれらの多くは小学校を出てなく，インドネシア語の読み書きができなかった。当時，30 代の村人一人が儀礼に関してノートに書いていただけだった。1986 年の大祭（*mangajingu*）の執行を最後に，中核村内の 13 戸の家（*uma*）すべてが参加する大規模な儀礼は行われなくなった。1990 年代に入りマラプ（祖先）のために儀礼（具体的には祈願と供犠）を実施するのを当たり前とみなす村人は減ってきた［小池 2005：179-227］。インドネシアでは 1994 年より中学校の義務教育化が実施され，村内に中学校がないウンガ村では村を離れて，中学校，さらには高校に進学する子どもたちも増え，さまざまな儀礼に触れながら子どもたちが村のなかで成長することはもはや過去の話になった。以前のような文字を介さず意識しないで上位世代から下位世代へ口頭で伝わっていた伝統はしだいに途絶えるようになり，対句を特徴とする儀礼言語を使った祈願を朗唱できる村人は減ってきた。さらに，3 章で説明したようなキリスト教，とくにプロテスタントへの改宗も一般化し，マラプ儀礼に参加しないスンバ人も増えている。このような社会変化は，その時間的進行や程度に違いはあれ，調査地ウンガだけでなく，スンバ島の他の地域でも確実に進展している。

2010 年以降，筆者がスンバを訪れると，1980 年代の調査結果を教えてくれ，何かインドネシア語で読める物を書いてないかと質問されることが増えてきた。キリスト教に改宗し大学を出たスンバ人のなかで，自分たちの伝統や歴史は意図的に学ぶこと，文字を読んで知ることに変わってきたのである。一方で，スンバの伝統にこだわりをもち，古老から聞き取った伝統，とくに祖先の系譜を文字に記録し，それをブログに記事として掲載したり，Facebook にアップロードする人も出てきた。YouTube のチャンネルを開設したジェクソン・ハンバ・プル（4 章 4 節参照）はその代表的な人物である。このように公開を前提に文字化された「伝統」[67] はまさに近代的なものである。そもそも祖先の系譜を軽々しく公表するこ

66）カンベラ語では *húri* であり，インドネシア語の adat（慣習）に近い概念である［Onvlee 1984：103］。

67）バリの「伝統」の語り方を論じる中村は「伝統を語る近代特有の様式がある」［中村 2009：67］と

とは，私の調査時点（1980年代）ではマラプの怒りを買うと恐れられた行為であった。

4章1節で取り上げたLii Marapuプロジェクトは，まさに近代的な文脈で「伝統」の再活性化を目指す運動といえる。さらに環境保護とマラプ信仰を結びつけて，2012年から複数のNGOが始めたスンバの水フェスティバル（Festival Wai Humba）[68]も，このような「伝統」の見直しと深く結びついている。また，2019年10月には大規模サトウキビ・プランテーションと地元の慣習社会（masyarakat adat）との土地紛争を発端にして，紛争の当事者である慣習社会も含め多様なNGOが東スンバ県議会と県知事庁舎にデモを行い，慣習社会の存在を認める条例の制定を求めた[69]。土地収用とか環境汚染など，自分たちが当たり前に享受してきた権利や環境が剥奪されるような状況に直面し，慣習や伝統の「再活性化」（revitalization）［Reuter & Horstmann 2013：2］の動きが顕著になる。

音楽の分野では，Lii Marapuプロジェクトとは違う方向性ではあるが，再活性化と呼べるのはエルソン・ウンブ・リアダとその仲間が結成するサンガル・オサである。ヤント・マラプのようにスンバを離れて活動するのではなく，中部スンバ県という地域に根ざして，農業をしながら独自の音楽作りを進めている。ジュンガという伝統的な弦楽器や，儀礼などで使われるゴングを取り入れた新しいスンバの音楽を目指している。上で取り上げたような運動だけでなくサンガル・オサの音楽作りも，YouTubeやFacebookというソーシャルメディアがなければ成り立たないものである。

「伝統」または「慣習」の再活性化は，「慣習社会」または「慣習共同体」（komunitas adat）という名称を使って，スンバだけでなくインドネシア全体で起きていることであり，そのネットワークを活用し活動はより活発化している。当然，インターネット上の公式サイトだけでなく，多様なソーシャルメディアが活動を広めるために使われている。そのような活動の全国的組織としてヌサンタラ慣習社会連合（Aliansi Masyarakat Adat Nusantara，略称はAMAN）が1999年に結成された[70]。この団体のYouTubeチャンネル[71]に収められている動画の一つがAgama Leluhur（「祖先の宗教」）[72]である。4人の慣習社会の代表者（南カリマンタン州のMeratusと，中部ジャワ州のSedulur Sikep，リアウ州のTalang Mamak，中部マルク州のNuaulu）がそれぞれの直面する問題，とくに子どもの教育と森林の土地問題を訴えている。「宗教をもたない」（tidak punya agama）という理由

述べている。筆者の「伝統」も同様の趣旨で用いている。

68）これは毎年1回スンバ島で開催されてきた。筆者は2016年10月26～29日に東スンバ県ハハル郡で開催されたフェスティバルを調査し，その成果の一部をKoike［2019］で報告した。

69）https://voxntt.com/2019/10/03/aliansi-masyarakat-sumba-tuntut-adanya-perda-masyarakat-adat-dan-pansus-pt-msm/52279/（最終確認2022/03/21）

70）https://www.aman.or.id/profil-aliansi-masyarakat-adat-nusantara（最終確認2022/03/23）

71）https://www.youtube.com/user/masyarakatadat/featured
（最終確認2022/03/23，2013年2月20日登録，登録者数1,980人）

72）https://www.youtube.com/watch?v=DOpexrCuCoM
（最終確認2022/03/23，2016年11月24日公開済み，3,684回視聴，20分15秒）

で身分証明書が発行されないなど，スンバ島のマラプ信仰者と同じ問題に苦しんでいることが明らかになる[73]。

(2) メディアの地域化と多様化

もう一つ忘れてはいけない点は，YouTube に数多くアップロードされている短編映画と地域のニュースはメディアの地域化と多様化の流れがさらに進展した，現時点での帰結ということである。1962 年に TVRI（インドネシア共和国テレビ）の開局によって始まったテレビ放送は，1982 年に民放 RCTI が放送を開始し，TVRI の一局独裁体制は終わり，その後，多局化の時代に入った［小池 1995a］。テレビ番組が国民の娯楽の大きな部分を占めるようになり，高視聴率のシネトロン（テレビドラマ）がいくつも話題になったり，また視聴者参加型オーディション番組で「国民的スター」が誕生した。さらに 21 世紀に入ると，中央集権的なナショナリズムから一転して，地方分権化が進み州レベルで民放テレビ局が放送を開始した。たとえば 2002 年に開局したバリ・テレビ（Bali TV）はバリ文化とバリ語を前面に出した番組作りを進めた［内藤 2009］。そして，2010 年代半ば以降になると，テレビに代表されるマスメディアだけでなく，多様なソーシャルメディアが娯楽や情報源（ニュースも含め）の選択肢に加わったのである。そのなかには本稿で取り上げたようなスンバを舞台にした短編映画も含まれている。もちろん，人びとがテレビ番組を観なくなったというわけではなく，YouTube などソーシャルメディア，さらに Netflix などの配信サービスが加わって，きわめて多様なメディアから個人の嗜好や目的・関心に合わせて各自が選択する時代になったといえる。そして，メディアを通して視聴する対象には，国民的な娯楽や地方色豊かな動画だけでなく，グローバルなコンテンツ（たとえば K-Pop や日本アニメ）も含まれている。

テレビよりも長く国民文化の一翼を担っていた映画は，ジャカルタの映画会社によって作られた作品が圧倒的に多く，国語であるインドネシア語ではなく地方語（たとえばジャワ語）を使った劇場版映画はきわめて限られていた。一方，1990 年代末以降，一部の地域では地方語を使った映画がビデオ CD（VCD）の形式で販売された［西 2021：43-44］。そして，今日では Pak Guru Hits Sumba（4 章 3 節）や Sinetron Sumba，Komedi Sumba（4 章 4 節）の例から分かるように，YouTube という格好の媒体を使って数多くの短編映画が公開されるようになった。パソコンを使って一般の人でも編集が簡単にできるため映画制作のハードルが低くなり，短編映画がインドネシア全体でトレンドになった。ソアリヒン・アスディン自身がこのことを YouTube 上の ADI NONA 2 の作品紹介に書いている。多くの若者が映画制作でその才能を示し，制約のある NTT でも多くの作品を作っている。ティ

73）2017 年に「宗教」に帰依する人も「宗教」に帰依しない「信仰者」（penghayat kepercayaan）も，等しく憲法に明記されている権利を保障されるべきだと憲法裁判所が認めたため，この問題は改善されつつある［小池 2020b；Butt 2019］。

モール島や，フローレス島，NTT の州都クパンの名前を冠した地方の短編映画（それぞれ Film Timor，Film Flores，Film Kupang と呼ばれる）が YouTube にアップロードされている[74]。ただし，一般の人が動画を制作するのは日本も含めて世界中で起きているが，短編映画が注目を集めるのはインドネシア的な現象なのかもしれない。

スンバ島で制作された短編映画という点は共通でも，Unkriswina の学生が授業の実習として制作した作品と，ソアリヒン・アスディンが制作した作品では，映像制作の技術面だけでなく，その内容がまったく違う。婚姻などスンバの慣習にこだわり，作品によってスンバ語を使ったものは，そのターゲットが限られている。一方，Pak Guru Hits Sumba チャンネルに収められた短編映画は，スンバ文化色がほとんど感じられず，コメディも交えた「青春ドラマ」と呼べるジャンルの作品になっていて，視聴回数が 120 万回を超える作品もあり，学生作品の 30 倍以上に達している。つまりスンバ島を越えてアピールする短編映画に仕上がっている。

6　おわりに

当初，YouTube だけでなく，Facebook と Instagram のようなソーシャルメディア全体を視野に入れて報告を書こうと思ったが，YouTube を調べているだけで，次から次へと新しい動画に出会い，結局，YouTube に焦点を当てて議論を進めることになった。とはいえ，本文中にも言及したように，YouTube をメインにして動画を発表している人であっても，Facebook と Instagram を使って，多様な情報を発信しプロモーションを進めている。複数のプラットフォームを目的に応じて使い分けるのが，ソーシャルメディアの有効的な活用法であり，ここで紹介した人たちはそれを実践している。

ただし，YouTube に動画をアップロードするのは，ごく少数であり，多くのスンバ人は Facebook か Instagram だけを使って多様な情報を発信している。ソーシャルメディア，とくに Facebook 自体はユニバーサルなメディアであるが，スンバ人が発信するメッセージをみていると，そこには明らかに日本とは違うスンバ的な特徴を読み取ることができる。本稿では触れることができなかった Facebook と Instagram に次の報告では焦点を当ててみたい。

参考文献

Aichner, Thomas et al., 2021, Twenty-Five Years of Social Media: A Review of Social Media Applications and Definitions from 1994 to 2019, *Cyberpsychology, Behavior, and Social Networking*, 24-4, Retrieved from https://www.liebertpub.com/doi/epdf/10.1089/cyber.2020.0134（最終確認 2022/02/25）

Badan Pusat Statistik, 2021a, *Data dan Informasi Kemiskinan Kabupaten/kota Tahun 2021*, Jakarta: Badan Pusat Statistik.

74）注 41 参照。

Badan Pusat Statistik, 2021b, *Statistik Pendidikan 2021*, Jakarta: Badan Pusat Statistik.

Badan Pusat Statistik, 2022, *Statistik Indonesia 2022*, Jakarta: Badan Pusat Statistik.

Badan Pusat Statistik Kabupaten Sumba Timur, 2022, *Sumba Timur dalam Angka 2022*, Waingapu: Badan Pusat Statistik Kabupaten Sumba Timur.

Badan Pusat Statistik Provinsi Nusa Tenggara Timur, 2021, *Provinsi Nusa Tenggara Timur dalam Angka 2021*, Kupang: Badan Pusat Statistik Provinsi Nusa Tenggara Timur.

Butt, S., 2019, The Constitutional Court and Minority Rights: Analysing the Recent Homosexual Sex and Indigenous Belief Cases, in Fealy, G. & R. Ricci（eds.), 2019, *Contentious Belonging: The Place of Minorities in Indonesia*, Singapore: ISEAS.

Forth, G.L., 1981, *Rindi: An Ethnographic Study of a Traditional Domain in Eastern Indonesia*, The Hague: Martinus Nijhoff.

本名純, 2020,「インドネシア・ジョコウィ政権にみる情動エンジニアリングの政治」見市建・茅根由佳編著, 2020,『ソーシャルメディア時代の東南アジア政治』明石書店。

法政大学大学院メディア環境設計研究所編，2020,『アフターソーシャルメディア――多すぎる情報といかに付き合うか』日経 BP。

飯田玲子ほか，2021,「COVID-19 状況下においてフィールドワークはいかに可能なのか？――若手座談会の報告」『文化人類学』85-4：770-772。

伊藤亜聖，2020,『デジタル化する新興国』中公新書。

Kantor Statistik Kab. Sumba Timur, 1987, *Sumba Timur dalam Angka 1986*, Waingapu: Kantor Statistik Kab. Sumba Timur.

Kapita, Oe.H., 1976, *Masyarakat Sumba dan Adat Istiadatnya*, Waingapu: Panitia Penerbit Naskah-naskah Kebudayaan Daerah Sumba Dewan Penata Layanan Gereja Kristen Sumba.

――――, 1982, *Kamus Sumba/Kambera–Indonesia*, Waingapu: Panitia Penerbit Naskah-naskah Kebudayaan Daerah Sumba Dewan Penata Layanan Gereja Kristen Sumba.

茅根由佳，2020,「2019 年インドネシア大統領選挙におけるオンライン・イスラーム説教師の台頭」見市建・茅根由佳編著『ソーシャルメディア時代の東南アジア政治』明石書店。

小池誠, 1995a,「疾風怒濤のインドネシア・テレビ界」松野明久編『インドネシアのポピュラー・カルチャー』めこん。

――――，1995b,「期待はシネトロン」松野明久編『インドネシアのポピュラー・カルチャー』めこん。

――――，2005,『東インドネシアの家社会――スンバの親族と儀礼』晃洋書房。

――――，2012,「インドネシア・スンバ島における世帯と家計の人類学的研究」『桃山学院大学総合研究所紀要』38-1：27-48。

――――, 2017a「人類学における結婚の諸概念をめぐって――内婚・外婚・イトコ婚」平井晶子ほか編著『シリーズ家族研究の最前線② 出会いと結婚』日本経済評論社

――――，2017b,「インドネシア・東スンバ県における宗教と人権――マラプ信仰をめぐる動き」『インドネシア・ニュースレター』95：31-37。

――――，2020a,「映画とインスタグラムが誘うスンバ――インドネシア東部における観光の発展」『桃山学院大学総合研究所紀要』46-2：61-80。

――――，2020b,「東部インドネシア・スンバ社会におけるマラプ信仰と人権をめぐる動き」インドネシア研究懇話会（KAPAL）（未公刊原稿）

Koike, M., 2019, Indigenous and Local Knowledge Promoting SDGs in Indonesia: The Case of the Sumbanese Cultural Festival, *Journal of Environmental Science and Sustainable Development*, 2-2. Available at: https://doi.org/10.7454/jessd.v2i2.1034

――――, 2021, The Impact of Cinema and Social Media on Tourism on the Island of Sumba, Eastern

Indonesia, a paper read at ICAS 12, Kyoto（Online Conference）, 27 August, 2021.（Unpublished Paper）
レヴィ＝ストロース，C.，2000,『親族の基本構造』（福井和美訳）青弓社。
見市建・茅根由佳編著，2020,『ソーシャルメディア時代の東南アジア政治』明石書店。
Miller, D. et al., 2016, *How the World Changed Social Media*, London: UCL Press.
内藤耕，2009,「競争のなかのバリのテレビ放送」倉沢愛子･吉原直樹編,『変わるバリ，変わらないバリ』勉誠出版。
中村潔, 2009,「バリにおける伝統と近代」倉沢愛子･吉原直樹編,『変わるバリ, 変わらないバリ』勉誠出版。
西芳実，2021,『夢みるインドネシア映画の挑戦』英明企画編集。
Onvlee, L., 1984, *Kamberaas（Oost-Soembaas）-Nederlands Woordenboek*, Dordrecht: Foris Publications Holland.
Reuter, T. & Horstmann, A., 2013, Religious and Cultural Revitalization: A Post-Modern Phenomenon? In Reuter, T. & Horstmann, A.（eds.）, 2013, *Faith in the Future: Understanding the Revitalization of Religions and Cultural Traditions in Asia*, Leiden: Brill.

（2022 年 3 月 30 日受理）

Videos Uploaded from Sumba on YouTube:
The Revitalization of Tradition in Eastern Indonesia

KOIKE Makoto

This paper is the first report on the research project titled "Interdisciplinary Study of Mutual Cultural Exchange between Japan and Indonesia (III)," which was funded by the Research Institute of St. Andrew's University. It aims to explore the kinds of videos that people on the island of Sumba have uploaded on YouTube and their backgrounds. This study focuses not only on the ongoing phenomena but also on a more broadly defined media that have completely changed since the late 1980s. Presently, many anthropologists face difficulty in conducting research owing to COVID-19. This research project is a kind of tentative online ethnography that connects the newest digital data with the materials on hand. In Indonesia, an emerging economy in Southeast Asia, internet users have been increasing rapidly, and most of them use mobile phones.

The island of Sumba is located on the periphery of eastern Indonesia and one of the country's most sparsely populated and impoverished regions. Before the Christianization began, all the Sumbanese believed in *marapu* (ancestral spirits). However, with continuous modernization, the number of *marapu* followers has decreased drastically. They have also faced legal and social discrimination. Their marginalization should be considered based on the background of videos made by the Sumbanese. The paper examines three YouTube channels and other genres of videos. First, the "Lii Marapu Project" channel, funded by NGOs, intends to revitalize traditional *marapu* cultural assets, such as Sumbanese music. Second, students of the Christian University of Wira Wacana Sumba make and upload short movies. Most of the movies are based on the theme of the Sumbanese customs, such as marriage prescription, which they are concerned with. Third, a junior-high school teacher produces short movies depicting cheerful high school life in which local students perform. Compared to serious stories made by the university students, these movies are produced with relatively less local culture and have a larger audience. Besides these short movies, this study also explored a video made by another Sumbanese teacher depicting his own version of history in which Sumbanese ancestors appear to originate from the Garden of Eden.

These YouTube videos can be discussed in terms of two kinds of changing media. First, the media through which Sumbanese history and traditions are disseminated have completely changed. During the late 1980s, village elders abided by customs passed down aurally from generation to generation and conducted annual rituals for *marapu*. There

was no written text of customs. Threatened with the extinction of these aural traditions today, some educated and Christian Sumbanese have been eager to learn their history and tradition. They post their own research results on blogs and videos of Sumbanese history on YouTube. These videos are thought to be modernly revitalized tradition. Second, media have been localized and diversified in Indonesia. After the age of national and local television broadcasts, as internet use is proliferating, videos on YouTube made by ordinary people have become an alternative Indonesians can choose among various media contents.